

りんご研究所ニュース



令和2年度 参観デー

今年の参観デーは新型コロナウイルス感染症が心配される中でしたが、入場時の氏名・連絡先の記載と検温、マスクの着用、消毒液の設置や定期消毒作業のほか、ソーシャルディスタンスをとるなどの感染防止対策をして開催しました。

【黒石会場】

9月3日(木)、4日(金)の二日間にわたって開催しました。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている講演会、ほ場案内ツアー、ミスりんごによる試食会、農業機械まつり等の催しを一部中止するとともに、出店業者も例年の6割と、3密を回避するため、規模を縮小して行いました。さらに、初日は猛暑、2日は豪雨と悪天候にもかかわらず、両日合わせて約2,500名の来場者がありました。



りんご・もも販売コーナーは、販売開始30分で完売するなど盛況でした。



また、ハスクバーナ・ゼノア(株)のロボット芝刈機と昨年も当参観デーで実演した和同産業(株)のロボット草刈機が来場者の注目を集めました。

【五戸会場】

9月17日(木)に開催しました。新型コロナウイルスの影響で来場者数の減少が心配されましたが、例年並みの約600名が訪れました。生産物販売所は例年より来客が早い時間に集中し、午前中のうちに完売しました。



果樹栽培相談コーナーではぶどうの裂果対策やもものせん孔細菌病対策などの相談に研究員が対応しました。今年度は、「密」を避け

つつ、かつ実際に樹を見ながら研究成果を見てもらえるように、圃場内に多くの成果ポスターを設置し、「ぶどう『シャインマスカット』の省力化技術」などに来場者の注目が集まっています。



【おとうと】「ジュノハート」 適期収穫・目揃い研修会

6月24日に県南3会場、25日に津軽1会場にて、おとうと「ジュノハート」普及促進研究会、おとうと「ジュノハート」ブランド化推進協議会の共催で、おとうと「ジュノハート」適期収穫・目揃い研修会を開催、合計で約100名が参加しました。



研修会では、適期収穫に向けて専用カラーチャートの利用方法について

説明を行いました。また、果実見本を用いての出荷規格の説明がりんご果樹課から行われ、参加者の注目を集めていました。



今年「ジュノハート」全国デビューの年であり、「ジュノハート」のブランド化に向けた生産者の熱意が感じられる研修会となりました。



また、6月30日の八戸中央卸売市場での初競りセレモニーでは三村知事も出席して行われ、最上

【職員表彰】

位等級品の「青森ハートピート」が15粒入り1箱30万円、1粒2万円の高値を付け、話題になりました。

8月25日、産業技術センターの職員表彰式がありました。当研究所からは弘前工業研究所とともに、おとうと「ジュノハート」の高品質安定生産技術・普及促進研究チームが『おとうと「ジュノハート」の高品質安定生産技術の開発と普及促進・ブランド化への貢献』を評価され表彰されました。



【スマート農業現地見学会及び第2回推進会議】

9月25日、令和2年度「青森県中南部地域におけるりんごスマート農業技術の経営改善効果実証」に係る現地見学会及び第2回推進会議を弘前市で開催しました。



午前のもりやま園(株)での現地見学会では、小雨の中、生産者など約30名が集まり、「Agrion果樹」による作業時間記録と活用、「光センサ選果機」による選果、「ロボット草刈機」による草生管理について実演が行われました。参加者からは導

入コストや性能について多くの質問がありました。



午後の弘前商工会議所での第2回推進会議では、コンソーシアム構成員他21名が出席しました。当研究所からは、「ロボット草刈機」の草刈状況、「Agrion果樹」による作業日誌の記録方法を説明しました。また、実証経営体のもりやま園(株)森山代表取締役が「ロボット草刈機」の作業時間及び経費比較、「光センサ選果機」の選果結果、「Agrion果樹」の機能を説明しました。

実証結果をまとめるために活発な議論が交わされました。